

Shape your world



Ritsumeikan
Asia Pacific University

「水×SDGs」メソッド

平野 実晴

(ひらの・みはる)

立命館アジア太平洋大学・助教

HP: www.miharu-hirano.com

2021年11月10日

「水 (water)」と記されたターゲットを含む 目標 (ゴール) は?

3 GOOD HEALTH
AND WELL-BEING



5 GENDER
EQUALITY



6 CLEAN WATER
AND SANITATION



7 AFFORDABLE AND
CLEAN ENERGY



8 DECENT WORK AND
ECONOMIC GROWTH



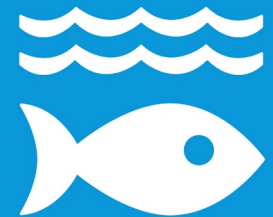
11 SUSTAINABLE CITIES
AND COMMUNITIES









12 RESPONSIBLE
CONSUMPTION
AND PRODUCTION



14 LIFE BELOW
WATER



 <p>Target 3.3</p>	<p>2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。 By 2030, end the epidemics of AIDS, tuberculosis, malaria and neglected tropical diseases and combat hepatitis, water-borne diseases and other communicable diseases</p>
 <p>Target 3.9</p>	<p>2030年までに、有害化学物質、並びに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。 By 2030, substantially reduce the number of deaths and illnesses from hazardous chemicals and air, water and soil pollution and contamination</p>
 <p>すべて All targets</p>	
 <p>Target 11.5</p>	<p>2030年までに、貧困層及び脆弱な立場にある人々の保護に焦点をあてながら、水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。 By 2030, significantly reduce the number of deaths and the number of people affected and substantially decrease the direct economic losses relative to global gross domestic product caused by disasters, including water-related disasters, with a focus on protecting the poor and people in vulnerable situations</p>
 <p>Target 12.4</p>	<p>2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。 By 2020, achieve the environmentally sound management of chemicals and all wastes throughout their life cycle, in accordance with agreed international frameworks, and significantly reduce their release to air, water and soil in order to minimize their adverse impacts on human health and the environment</p>
 <p>Target 14.7</p>	<p>2030年までに、漁業、水産養殖及び観光の持続可能な管理などを通じ、小島嶼開発途上国及び後発開発途上国の海洋資源の持続的な利用による経済的便益を増大させる。 By 2030, increase the economic benefits to Small Island developing States and least developed countries from the sustainable use of marine resources, including through sustainable management of fisheries, aquaculture and tourism</p>

貴社が貢献を目指すゴールは？ (最優先のものから、順に選んでください)

3 GOOD HEALTH
AND WELL-BEING



5 GENDER
EQUALITY



6 CLEAN WATER
AND SANITATION



7 AFFORDABLE AND
CLEAN ENERGY



8 DECENT WORK AND
ECONOMIC GROWTH



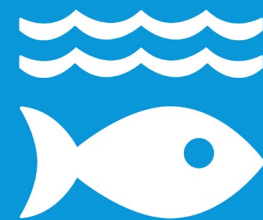
11 SUSTAINABLE CITIES
AND COMMUNITIES



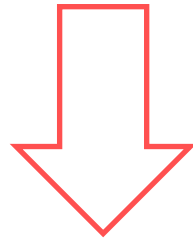
12 RESPONSIBLE
CONSUMPTION
AND PRODUCTION



14 LIFE BELOW
WATER



SDGs 「を」 水で考える



SDGs 「で」 水を考える

SDGsとは、何か？

国連総会決議70/1 『持続可能な開発のための2030アジェンダ』
([原文](#)・[日本語訳](#))

SDGsとは、何か？

行動計画

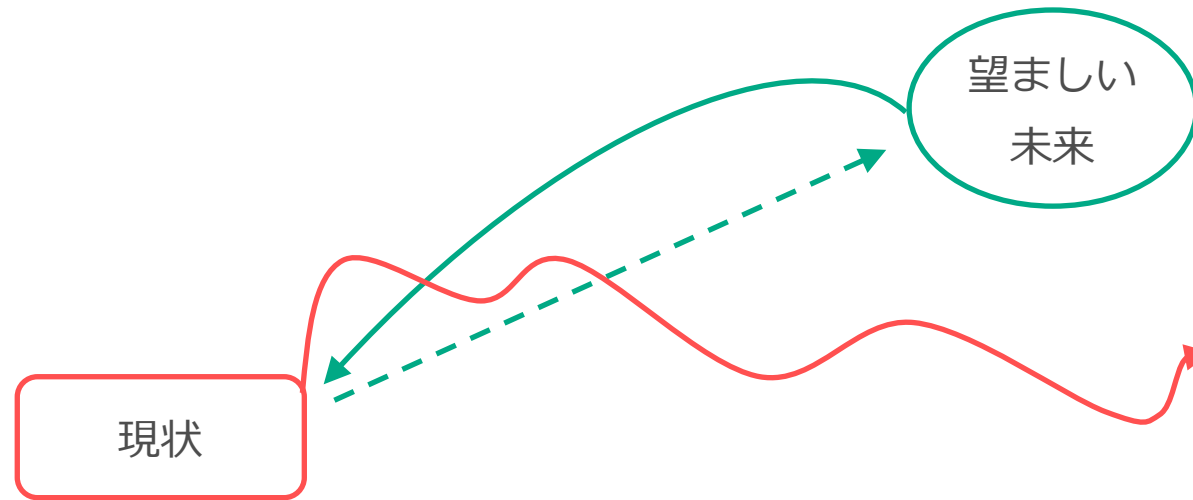
誰が決めたのか？

我々＝国の代表（国民に代わり決定）

何を実行するのか？

世界を持続的かつ強靱（レジリエント）な道筋に移行させるために緊急に必要な、大胆かつ変革的な手段

SDGsの構造



「我々は、どのような未来を望むか？」

↓バックカスティング

• 目標 **17**

↓具体化

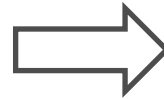
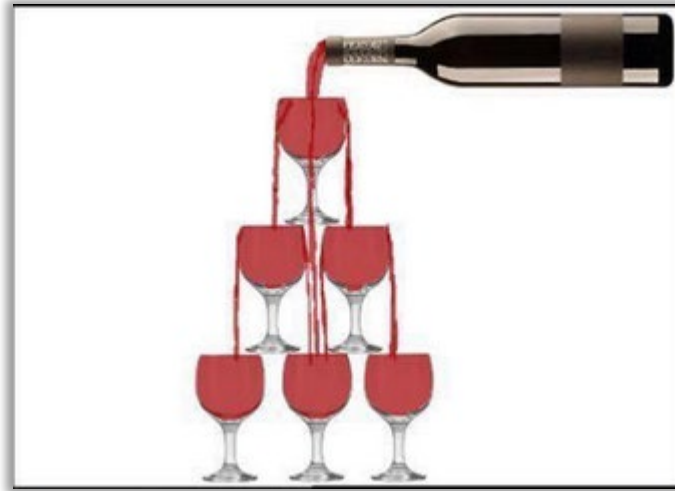
• ターゲット **169**

↓進捗をモニタリング

• 指標 **232**

「誰一人取り残さない」

トリクルダウン



人間中心



MDGターゲット7C：
2015年までに、安全な飲用水
と基礎的な衛生施設を継続的
に利用できない人々の割合を
半減する。

SDGターゲット6.1：
2030年までに、**すべての**
人々の、安全で負担可能な
価格の飲用水の普遍的かつ
衡平なアクセスを達成する

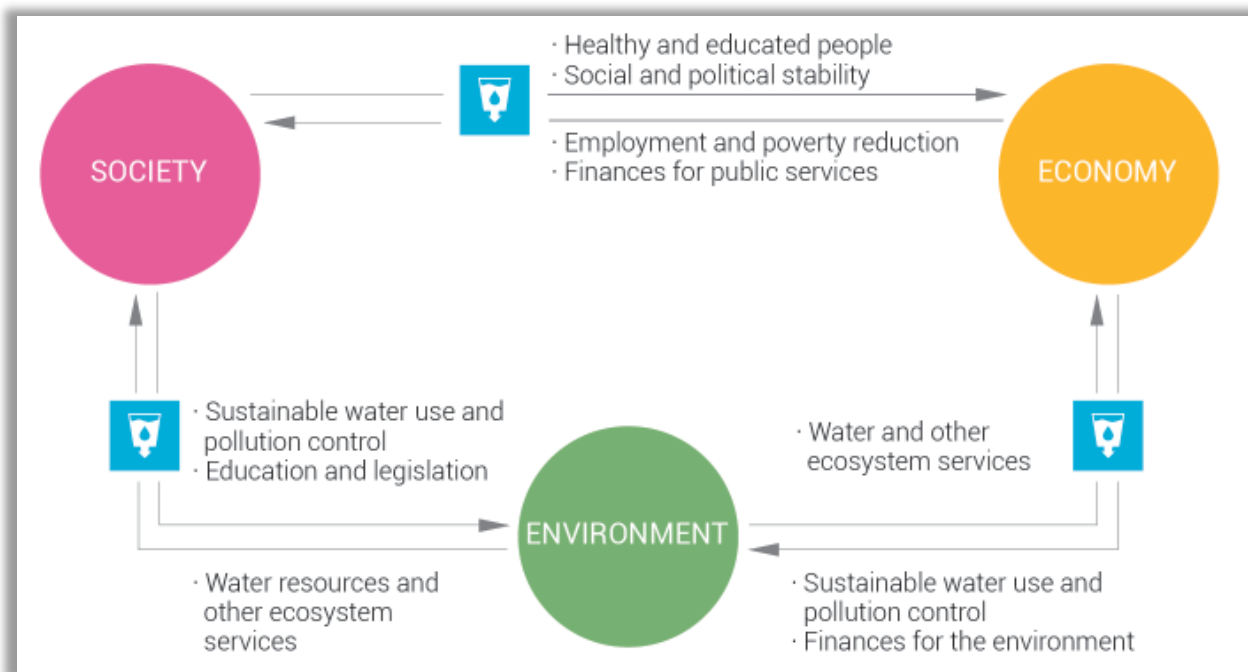
「持續可能性」

持續可能

環境保護

經濟成長

社會的包攝

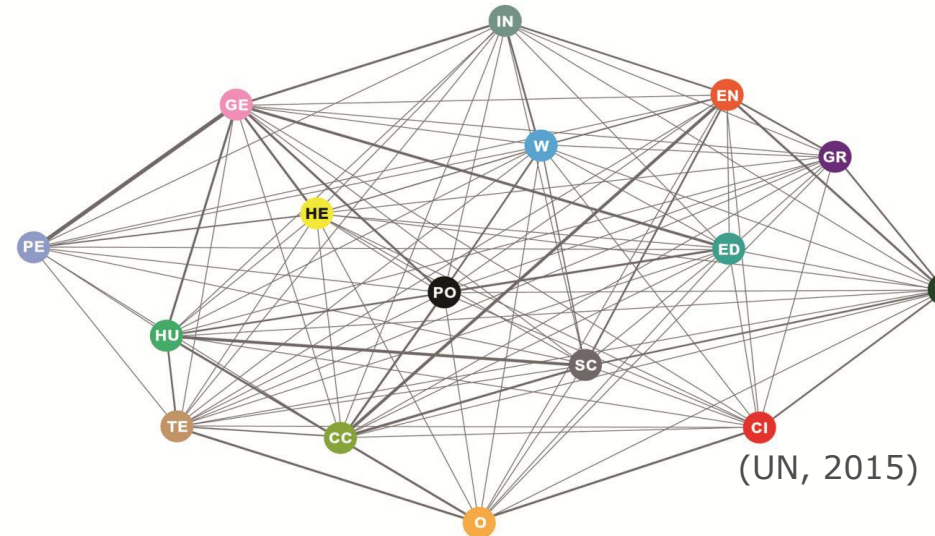


(UN-Water, 2018)

「相互連関性(interlinkages)」



(UN-Water, 2018)



(UN, 2015)



(ESCAP, 2017)

SDGsの「活用」

そのための道具立て

「水×SDGs」ワーキンググループ

<http://www.japan-ywp.site/>



水 × SDGs

Japan-YWP 「水×SDGs」ワーキンググループ報告書

～SDGsの日本ごと化・水ごと化・自分ごと化～

平野実晴 (編集責任)
後藤正太郎、鈴木真実、長尾麻未
矢口光良、吉田健人、高田一輝、久富裕

2021年4月

SDGs 活用に向けた道具立ての手順 — Young Water Professionals の取り組みからの提案 —*

平野 実 晴

はじめに

SDGsは、我々が社会を変革し、世界を持続可能でレジリエントな道筋へと移行させるための行動計画である。日本の水システムに関わる立場からも、SDGsを通して課題を見つけ、未来像を描きおし、協働して行動することで、世界的な目標の達成に貢献できる。

ただし、SDGsは扱いづらい。そもそもSDGsは世界全体を対象にしており、必ずしも日本の文脈になじむ表現が用いられているわけではない。SDGsの原文は英語を含む国連公用語であり、用いられている文の中には、正確な意味を日本語に置き換えることが容易でないものもある。また、SDGsはグローバルな課題を幅広く取り上げており、そのスケールの大きさと目標の数だけでも、圧倒されかねない。

SDGsの実施は各行動主体に任せられているため、公式の取扱説明書はない。“SDGs”に言及する活動が日本でも広まっており、それ自体は喜ばしいことである。しかし、そうした活動がSDGsの理念を具現化できていなければ、目標達成には結びつかない。それどころか、SDGsへの貢献を掲げた活動が、実際はいくつかの目標を達成する足かせとなってしまいかもしれない。SDGsが日本の社会で広く認知された今日、今一度SDGsと向き合い、その本質に迫るにはどうすればよいのか、改めて問い直すべき段階にある。

これまで、SDGsを「使う」ことが強調されるあまり、その前段階として、SDGsを自らが活動する文脈で「使えるようにする」ことに、あまり注意が向けられてこなかった。この段階を経てこそ、本質を踏まえたSDGsの「活用」が可能になるのではないだろうか。筆者は、水に関わる若手専門家が自主的に参加する団体であるJapan National Young Water Professionals (Japan-YWP) の協力を得て、実験的な取り組みを行った。本稿では、Japan-YWP「水×SDGs」ワーキンググループにおける

実践の過程を振り返ることで再構成した、SDGs活用に向けた道具立ての手順を提案する。

本稿では、まず、世界を変革するための行動計画であるSDGsの意義と、その特徴的な仕組みを改めて確認する(1)。その上で、SDGsを活用するための条件を検討する(2)。そして、SDGsを実践的に用いる際には「使えるようにする」という準備段階が重要であることを指摘し、実際に「水×SDGs」ワーキンググループの取り組みを例に、具体的な作業の手順を紹介する*(3)。最後に、まとめと展望を述べる。

1. SDGsの仕組み

2015年、設立70周年を祝う国連は、全加盟国が出席する総会で、人間と地球、そして繁栄のための行動計画を示した決議「我々の世界を変革する：持続可能な発展のための2030アジェンダ」¹⁾を採択した²⁾。この中で、我々が目指す未来像として、非常に野心的かつ変革的なビジョンとして設定されたのがSDGsである。

SDGsの前身であるミレニアム開発目標(MDGs)の対象は、発展途上国であった。それに対し、SDGsはグローバルで、普遍的な目標として、先進国も対象にしたところに特徴がある。“D”(development)は、他動詞の意味を反映して「開発」と訳されることが多いが、自動詞の名詞化として「内発的」と向上というニュアンスも含む単語である。そこで、SDGsを持統的な「発展」目標と訳すことで、日本にとっても関連するものを感じやすくなるのではないだろうか。

SDGsは、世界全体で目指す規範的な理念を示した17の「目標(ゴール)」と、より具体的に到達基準を定めた169の「ターゲット」から成り立つ。他方、どのような行動をとるかについて、具体的な定めはない。むしろ、政府や地方自治体、企業、組合やNGO、学界、そして市民一人ひとりを含む、様々な行動主体が呼びかけに応え、パートナーシップを組みながら行動につなげていくことが期待されている。

このように、世界に共通のビジョンを掲げ、各行為主体による自発的な取り組みを促すSDGsの仕組みは、「目標設定によるガバナンス」ないし「目標ベースのガバナンス」と呼ばれている³⁾。

この柔軟な仕組みを支え、我々の行動を牽引する原動力となるのが、SDGsが有する実体面(内容)と手続面



Miharu Hirano
博士(総合学術)
平成25年 京都大学法学部卒業
27年 日本学術振興会特別研究員(DC1)
29年 国際水協会(International Water Association: IWA) 特任研究員
30年 京都大学大学院総合生命学専攻(思修館) 博士(一貫) 課程修了
同年 日本学術振興会特別研究員(PD)
令和元年 立命館アジア太平洋大学助教

* Preparation Steps for Operationalizing the SDGs: A Proposal Based on an Initiative by Young Water Professionals in Japan

¹⁾ Japan-YWP「水×SDGs」ワーキンググループの活動の詳細については、Japan-YWPのホームページに掲載する報告書を参照されたい。http://www.japan-ywp.site/ (2021年2月時点)。

²⁾ [2030アジェンダ]の訳については外務省訳訳を参照したが、筆者が訳語を変更した箇所がある。https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html#about_sdgs (2021年2月時点)。

SDGs（持続可能な開発目標）とは、国連サミットで採択された「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標です。

すべての国々がそれぞれの立場から、目標達成に向けて行動することが求められており、国や県も積極的に取り組んでいます。

企業団は、本ビジョンに基づく取組みを通じて、普遍的な国際目標であるSDGsに積極的に貢献していきます。

かながわ広域水道ビジョン

～「最適な水道システム」の実現に向けて～

令和3年3月
神奈川県内広域水道企業団



達成に貢献するSDGsの各目標※

ビジョンとの関係



- ・安全で良質な水を安定的に送り続けることで、安全な水へのアクセスに関する目標【6】達成の継続に直接的に貢献します。



- ・『I「最適な水道システムの実現に向けた施設整備と運用・管理」の取組みを通じ、気候変動緩和や自然環境保護に関する目標【7】【12】【13】【15】の達成に貢献します。
- ・『II自然災害や多様なリスクへの対応強化』の取組みを通じ、強靱な街づくりに関する目標【9】【11】【17】の達成に貢献します。
- ・『III経営基盤の強化』の取組みを通じ、働きがいや持続可能な成長に関する目標【8】の達成に貢献します。



- ・その他の目標についても、取組みにおける具体的な手法、解決策の検討の際の視点として意識します。

※ SDGsの各目標の詳細については、「国際連合広報センター」Webサイトを参照

<https://www.kwsa.or.jp/keiei-zaisei/vision.html>

『水環境学会誌』第44号（A）4号（2021年）にて詳しく紹介されている。